

知的障害教育高等部部会

進路指導における評価の在り方

I 研究のねらい

知的障害教育においては、個別指導計画に基づいたきめ細かな指導が行われており、それぞれの学習の到達度についての評価も行われてきた。しかしながら、その指導の評価については、指導担当教員の判断によるところが大きく、客観的なものになりにくい現状がある。

特に、進路指導においては、実習先や進路先を決定することに重点が置かれがちであるため、生徒一人一人の社会参加に向けた社会に関する理解や自己についての理解、主体的な進路選択を培う学習等の評価の内容・方法の研究開発が十分ではなかった。

また、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるようにしていくためには、生徒一人一人の指導目標に照らして、その実現状況を分析的、客観的に評価するとともに、指導内容・方法の改善・充実を図り、「指導と評価の一体化」を推進していく必要がある。

本部会では、高等学校における観点別学習状況の評価、評価規準の作成という方法を活用し、進路指導における分析的、客観的な評価と、それに基づく指導内容・方法の改善を図ることをねらいに実践的な研究を行った。

II 研究の内容

1 進路指導のねらいと進路学習の重要性

昭和56年からの国際障害者年を契機に、そのテーマである「完全参加と平等」を進める理念において、「障害者の自己決定と本人参加の尊重」が注目されるようになった。特に、知的障害のある生徒への自己決定・本人参加の支援の基礎には、生徒本人への情報提供が不可欠である。今後、高等部の進路指導においては、生徒へ進路に関する十分な情報提供の基に、生徒自身の「自己選択・自己決定」に基づく指導内容・方法の実践がさらに重要になっている。

そのような意味からも、教科「職業」、生活単元学習、ホームルーム活動等における進路学習は、発達期上の移行期にある生徒への、主体的な進路選択につながる進路情報の提供ばかりでなく、社会に関する理解や自己についての理解等を培う重要な役割がある。

2 進路学習の評価規準と評価項目の開発

知的障害養護学校高等部における進路学習は、教科「職業」、ホームルーム、生活単元学習等を通して実施されている。しかし、その評価は、個人内評価に重点が置かれ、分析的、客観的に行われにくい現状がある。今後、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的な進路選択の学習状況を適切に評価していくとともに、生徒の関心・意欲や、生徒の良さや可能性に目を向け、生徒の豊かな自己実現に役立つ評価の開発が必要である。

また、現在、学校から社会へのスムーズな移行を支援する「個別移行支援計画」に基づく指導・支援が試みられている。ここでは、より積極的に生徒の社会参加に視点を置いた評価内容・方法が重要である。つまり、適切な支援があれば、目的に合った力が出せるなどの具体的な支援の手立てを伴った評価が必要であり、知識や技能の到達度を的確に評価することのできる進路学習の評価規準の開発が重要である。

Ⅲ 研究の方法

進路学習の評価規準の開発に当たり、まず各校の進路指導の取り組みについて情報交換を行い、進路指導のねらい^(注1・2)や進路学習の内容(資料1参照)、産業現場等における実習(以下、現場実習と記す)等における評価表等を参考に検討を行った。そして、各校の進路学習の内容と具体的な活動を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」という4観点別に分類した。4観点の分類には、どの観点にいれたらよいか迷う内容もあったため、評価の対象を明確し(資料2参照)、評価規準を作成した(資料3参照)。

注1

〈盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領 第1章 第2節 第4款 5(5)〉

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと。

注2

知的障害養護学校高等部の進路指導の目標(例)

高等部1年：進路への関心を培う段階

- ・新しい学校生活の中で、卒業後の生活に必要な基本的な生活習慣や基礎学力を身に付けるとともに、学校生活の課題を理解し、前向きに学校生活を送る。
- ・職場見学や就業体験などを通じ、働くことへの理解を深める。
- ・身近に働く人の職業や社会生活に対する興味をもつ。

高等部2年：進路を探索・試行する段階

- ・学校生活における自分の課題を意識し、自分の成長のための努力することにより、課題達成の喜びがもてるようになる。
- ・産業現場等における実習等を通して、働くうえでの自己理解を深める。
- ・いろいろな仕事や生活の仕方を知り、自分や社会への理解を深めるとともに、希望する進路をもつ。

高等部3年：進路を選択・試行・決定する段階

- ・高等部3年間を振り返り、自分の成長を確かめるとともに、社会人としての態度を身に付ける。
- ・産業現場等における実習を通して自分の卒業後の生活(職業生活・家庭生活・余暇利用等)を考え、社会人になる心構えを学び、身に付ける。
- ・社会自立を目指し、卒業後豊かな生活が送れるよう、進路先を決定する。

資料1 A 養護学校高等部の3年間の進路指導内容例

	1年 進路についての関心を培う段階	2年 進路を探索・試行する段階	3年 進路を選択・試行・決定する段階
1 学期	<p>○進路ガイダンス ・各学年の進路学習について</p>		<p>・進路決定の流れについて ・卒業について</p>
		<p>○職場見学に行こう ・いろいろな仕事について ・職場体験について</p> <p>○職場見学のまとめ ・いろいろな仕事について ・職場体験について</p>	<p>・福祉事務所、ハローワーク等について</p>
	<p>○実習激励会をしよう ・いろいろな仕事について ・実習について</p> <p>○実習激励会のまとめ ・いろいろな仕事について ・現場実習について</p>	<p>・実習について ・発表準備について ・健康、身だしなみ、マナー、人間関係等について</p> <p>○実習に行こう ・現場実習について ・面接の受け方について ・実習中の生活について ・実習日誌の記入方法、通勤練習について</p> <p>○実習のまとめ ・現場実習反省、まとめについて ・お礼状書きについて</p>	
2 学期	<p>○実習報告会をしよう ・先輩の実習について ・実習、働くことについて</p> <p>○実習報告会のまとめ ・仕事について(いろいろな仕事、職場) ・先輩の実習、職場について</p>	<p>・仕事について(いろいろな仕事) ・実習の反省、まとめについて ・報告、発表準備</p>	
	<p>○自分のことを知る ・人のライフステージ ・自分のPR、友達との長所・健康管理 ・自分の家(住所、電話番号、最寄り駅等) ・家庭での仕事や手伝い ・生活のスケジュール ・余暇施設の利用の仕方 ・休日の過ごし方 ・学校の友だち ・わたしの夢</p>	<p>○社会人になるために ・健康管理(①生活習慣②食べ物と栄養③体力作り④肥満⑤病気) ・清潔・身だしなみ ・人とのつきあい(①あいさつと返事②言葉遣いと態度) ・マナー(①食事②電車やバスの利用③電話) ・金銭管理(①こづかい帳)</p>	<p>・相談できる人、支援機関について ・ハローワーク、求職登録について ・働くことについて (職場生活と家庭生活、働く人の1日) ・生活の場について (①家族との生活②通勤車での生活③グループホームや生活寮での生活④会社の社員寮での生活)</p>
	<p>○職場見学に行こう ・いろいろな仕事について</p> <p>○職場見学のまとめ ・いろいろな仕事について</p>	<p>○進路を考える ・進路を決めるために①自分をよく知る②進路先についての相談③進路についての情報収集 ・進路先(①一般企業への就職②福祉作業所への入所③福祉工場への就労④職業能力開発校⑤各種学校、専修学校) ・進路決定の手順について</p>	
3 学期	<p>○実習激励会をしよう ・いろいろな仕事について ・現場実習について</p> <p>○実習激励会のまとめ ・いろいろな仕事について ・実習について ・先輩の実習先について</p>	<p>・実習について ・発表準備について ・健康・身だしなみ、マナー、人間関係等について</p> <p>○実習に行こう ・現場実習について ・面接のやり方について ・実習中の生活について 等</p> <p>○実習のまとめ ・反省、まとめについて ・お礼状の書き方について</p>	
	<p>○実習報告会をしよう ・先輩の実習について ・実習、働くことについて</p> <p>○実習報告会のまとめ ・仕事について(いろいろな仕事、職場) ・先輩の実習、職場について</p>	<p>・仕事について(いろいろな仕事、職場) ・実習の反省、まとめについて ・発表準備</p>	
	<p>○校内実習をしよう ・働くことの意義について ・実習日誌の書き方</p> <p>○校内実習のまとめ ・校内実習の反省、まとめ ・流通について</p> <p>○働くこと ・学校や家のまわりの仕事 ・いろいろな仕事 ・働く人の1日 ・生産、消費、流通</p>	<p>○進路を考える ・進路について相談できる場所 (①福祉事務所②更生相談③公共職業安定所④障害者職業センター、就労支援センターについて)</p>	<p>○社会人になる ・経済生活について (①給料と生活費②給料の使い方③貯金④お金の貸し借り⑤消費者問題) ・知っておきたい決まりや制度について (①権利と責任②選挙権③税金④年金⑤給料⑥休暇⑦療育手帳⑧保険制度⑨支援費)</p>
<p>○進路各面談 ・実習、進路希望について ・現在の課題の明確化について ・自分の特性等の自己理解について</p>	<p>○進路を考える ・進路について相談できる場所 (①福祉事務所②更生相談③公共職業安定所④障害者職業センター、就労支援センター) ・履歴書の書き方について</p>	<p>○社会人になる ・休暇の過ごし方(①休日の過ごし方②同窓会の計画③青年学級や地域のサークルへの参加) ・個別移行支援計画 ・社会人の生活(①学校時代の生活と卒業後の生活の違い②家庭での生活③卒業後の生活)</p>	
<p>○進路ガイダンス ・2年生の進路学習について</p>	<p>・3年生の進路学習について</p>	<p>・将来のことについて(ライフステージ)</p>	

資料2 進路学習の評価規準作成に際しての観点別評価の対象

観 点	評 価 の 対 象
関心・意欲・態度	・進路学習への積極的な取り組み
思考・判断	・進路に対する考え方 ・進路決定の判断力
技能・表現	・進路情報の整理と活用 ・自己管理能力やコミュニケーション能力
知識・理解	・進路に対する知識・理解

資料3 進路学習の評価規準及び学習活動に即した具体的な評価規準(例)

	評価の対象	評価規準	学習活動に即した具体的な評価規準
関心・意欲・態度	進路学習への積極的な取り組み	卒業後の進路や生き方に関心をもち、将来の生活についての学習に積極的に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活に関心をもち、学習しようとする。 ・様々な仕事に興味・関心をもち、学習しようとする。 ・自分の良さや他者の良さを知ろうとしている。 ・現場実習に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。 ・身近な地域のサービス内容や提供機関等に関心をもち、学習しようとしている。 ・地域生活や職業生活を送る上でのルール、マナーに関心をもち、学習しようとする。 ・将来の夢や希望の実現に向かって意欲的に学習しようとする。
思考・判断	進路に対する考え方 進路決定の判断力	自分の理想をもち、やりたいことやできることを判断して、進路を前向きに考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや個性を考え、判断している。 ・自己の能力や適性を考え、判断している。 ・卒業後の進路や生き方等を考えている。 ・現場実習の意義を考えている。 ・卒業後の進路や生き方等に関して、自らの課題を見いだしている。 ・将来の目標の実現に向けて、進路選択を考えている。 ・適切な進路選択をしている。 ・休日の過ごし方について考えている。 ・卒業後の生活に必要な支援を考えている。
技能・表現	進路情報の整理と活用 自己管理能力やコミュニケーション能力	卒業後の生活、職業に関する情報収集に努め、目標達成に向けて活用している。 自立した生活に向け、自己管理やコミュニケーション等の必要な技能・表現を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や希望のために、進路情報を収集している。 ・進路情報を自己の進路選択に生かしている。 ・進路情報を自己の生活設計に生かしている。 ・将来の夢や希望を表現している。 ・自分の意思や意見を適切に表現している。 ・他者の良さや感情を理解し、良好な対人関係を築いている。 ・健康で安全な生活のための習慣を身に付けている。 ・休日の過ごし方を工夫している。
知識・理解	進路に対する知識・理解	将来の生活に必要な知識や情報を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな進路や生き方等があることを理解している。 ・いろいろな仕事があることを理解している。 ・学校や家庭での自分の役割について理解している。 ・働くことの楽しさや厳しさ、意義を理解している。 ・自分の良さや個性を肯定的に理解している。 ・現場実習の意義を理解している。 ・社会の仕組みやきまりについて理解している。 ・生活に必要な支援機関の利用方法を知っている。 ・職業生活に必要な基本的なルール、マナーを理解している。 ・職業生活に必要な健康管理の方法を知っている。 ・職業生活に必要な余暇利用の方法を知っている。

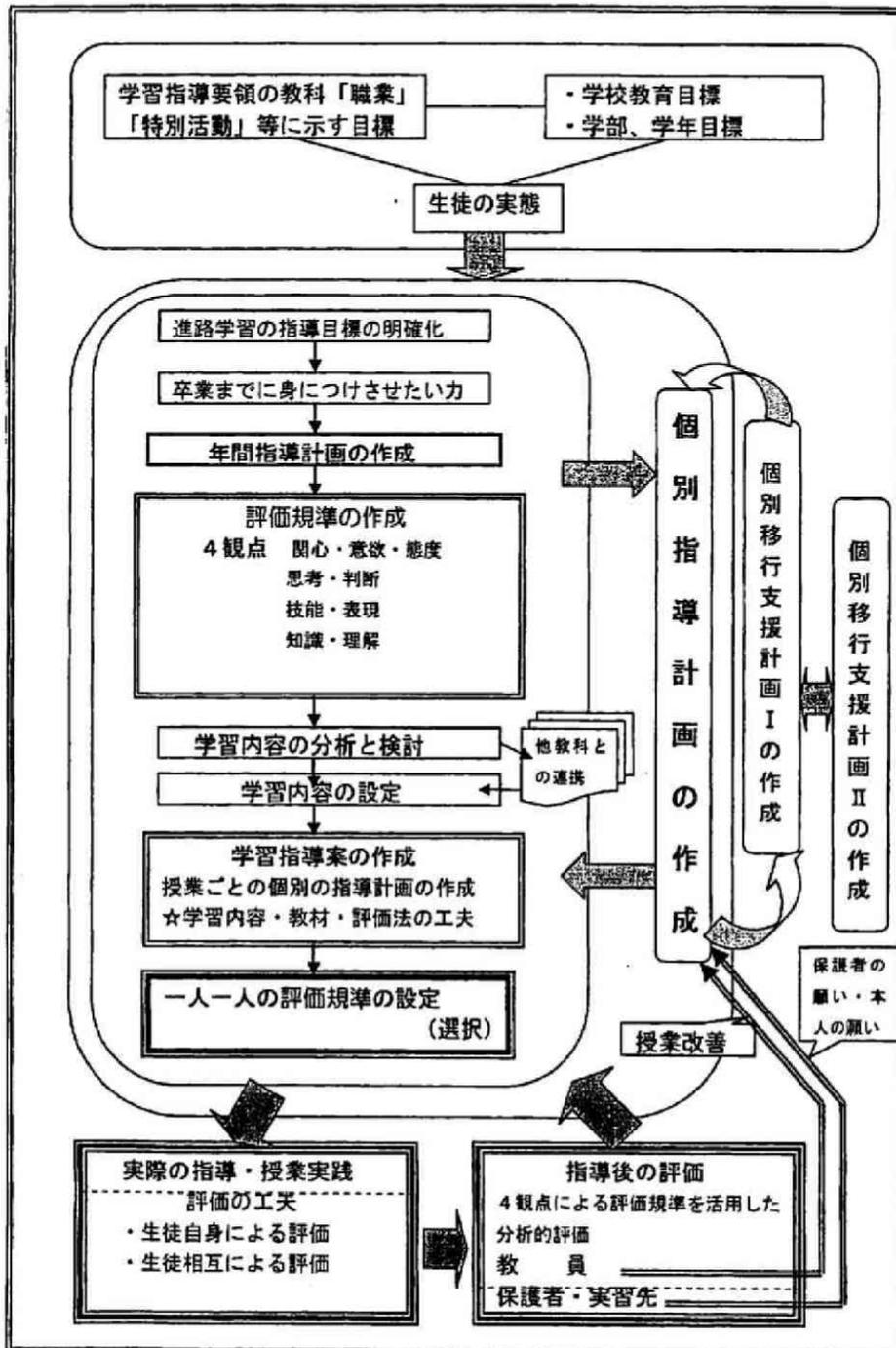
3 観点別による分析的な評価の活用による指導の改善事例の開発

本研究は、4つの観点による評価規準を開発し、分析的な評価を実施することで、評価の客観性、信頼性が高まるとともに、指導の改善・充実が図られるという仮説の基に事例研究を行った。

仮説の検証は、養護学校高等部において行い、本指導資料集には、異なる学習形態及び学習内容の事例を紹介するため、3事例を取り上げた。

なお、進路学習における評価規準の設定方法、授業実践・指導後の評価による授業改善等の方法は、下記の関連図のように考えた。

参考図 指導計画と評価の関連図



IV 指導事例

1 「職業選択」

(1) 生徒Aさんの個別指導計画（1年次 2学期）

Aさんは、養護学校中学部から高等部に進学してきた生徒である。校内実習は、中学部、高等部で経験しているが、働くことに対しての意識やイメージが十分にもてていないようであった。しかし、実習中は、日常の授業と異なることを理解し、作業に積極的に取り組むようになってきている。製品の出来高は、日を増すごとにあがっている。校内実習や作業学習のように身体を動かす活動には見通しがもて、自分から取り組むことができるが、話し合い中心の学習だと課題にのれないことが多い。また、ほとんど発語がないために、コミュニケーションを向上することが課題である。以上のことから、Aさんの個別指導計画を以下のように設定した。

平成15年度 個別指導計画（1）－実態表－〈抜粋〉高等部1年組 名前 A

< 障害 > 知的障害 愛の手帳2度	< 諸検査の情報 > 特になし	< 医学的情報（配慮事項） > てんかん発作： 有（ ） 服 薬： 有（ ） 健康上の配慮： 有（配慮が必要）
全 体 像	基本的な生活習慣は形成されているが、体調や服薬等の関係もあり、日によって傾眠傾向が見られる。発声・発音は数語あり、不明瞭である。日常生活の範囲であれば、言語指示が理解でき、コミュニケーションがスムーズになりつつある。他者からのかかわりに喜びや意欲を素直に表現でき、自分からかかわりをもととする様子が見られるようになった。学習面や生活面ではやや雑になってしまう傾向がある。興味のあるものには興奮気味に見たり、触ったりする。	重 点 目 標 ・卒業後の生活に向けて日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付ける。 ・コミュニケーションの力をつけ、自分で伝えていこうとする。 ・友達とのかかわりを広げたり、興味・関心の幅を広げ、自分から積極的にかかわろうとする。 ・体力をつける。

平成15年度 個別指導計画（2）〈抜粋〉－生活単元学習－

指導項目・内容	2学期の目標	支援の方法	様子と評価
生活単元学習（進路学習） ○働くこと ・学校や家のまわりの仕事 ・いろいろな仕事	・学校や地域で働く人の学習をとおり、仕事や働くことの意味を理解する。（知識・理解） ・いろいろな仕事の体験に関心を持ち、自分から活動しようとする。（関心・意欲・態度）（思考・判断） ・働く人の写真・絵カード等の視覚教材の中から自分がしたい仕事を選ぶことができる。（思考・判断）（技能・表現）	・仕事の実体験をしたり、実際の職場を見学するなど、働くことについてイメージがもてるようにする。 ・体験する場合は積極的にかかわれるように教師と一緒に活動する。 ・ビデオなどの視聴覚機器を活用し、学習を思い出したり、考えたりすることができるようにする。 ・傾眠傾向が強いため、動的行動や立位の状態での学習活動を設定する。	

(2) 指導事例

ア 単元名

働くこと

イ 単元設定の理由

生活単元学習の授業は、3つのグループに分けて指導している。本グループの生徒は、会話が成立する生徒から、簡単な指示言語のみの理解の生徒まで様々である。日常生活における言葉は、大部分の生徒が理解することができる一方、ホームルームなどは、個別の対応がないと、自分から発言したり、行動することができない生徒が多い。

働くことに関しては、ほとんどの生徒が仕事に対しイメージすることができないため、学校や家のまわりの様々な仕事を見学したり、体験することにより、働くことについて少しずつ理解できるように本単元を設定した。

ウ 本単元の学習計画（6時間）

- ① 学校の主事さん・調理員さんの仕事を見学し話を聞く。 ○月○日
- ② 主事さんの仕事を体験する。（学校の仕事①） ○月○日
- ③ 校内実習や落ち葉はきを体験する。（学校の仕事②） ○月○日
- ④ 商店で働く人を観察し話を聞く。（学校や家のまわりの仕事） ○月○日
- ⑤ 前回までの観察や体験から働くことは何か、どんな仕事があるのか
考え、出し合う。（いろいろな仕事） ○月○日（本時）
- ⑥ 学校の中でできる仕事をさがし体験してみる。（学校の仕事③） ○月○日

エ 本時のねらい

- ・様々な仕事に興味をもつ。（関心・意欲・態度）
- ・商店の見学を元に、「商店で働く人」がどのような仕事をしてきたかを知る。（思考・判断）（技能・表現）
- ・学校や商店で働くほかに、どのような仕事があるかを出し合う。（思考・判断）（技能・表現）

オ 本時の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

観点	評価規準	学習活動に即した具体的な評価規準
関心 意欲 態度	卒業後の進路や生き方に関心を持ち、将来の生活についての学習に取り組む	・本時の学習内容や流れの説明をしっかりと聞こうとする。 ・商店や学校で働く人が何をしているか興味・関心をもって学習しようとする。
思考 判断	自分の理想をもち、やりたいことができることを判断して、進路や生き方を前向きに考える。	・商店で働く人がどのような仕事をしてきたかを考え、その仕事を絵カードや写真の中から選択している。 ・身近な仕事についてどのような仕事があるか、絵カードや写真の中から選択している。
技能 表現	自立した生活に向け、自己管理やコミュニケーション等の必要な技能・表現を身に付けている。	・自分の意思や意見を絵カードや写真を貼ることにより、表現している。
知識 理解	将来の生活に必要な知識や情報を理解する。	・絵カードや写真を通して、商店や身近な仕事について理解している。 ・働くことの楽しさや意義を理解している。 ・学校や家庭での自分の役割について理解している。

カ 本時の授業展開

	学習活動の流れと生徒の学習に対する姿勢	生徒の活動および評価				指導への評価
		Aさん	Bさん	Cさん	..	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> これから授業が始まることを意識し、あいさつをする。 話を聞き、この時間に何を学習するかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> これから授業が始まることを意識し、しっかりとあいさつしようとする。(関心・意欲・態度) 話を聞き、この時間に何を学習するかを理解する。(関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き、この時間に何を学習するか理解し、発言する。(関心・意欲・態度) 			<ul style="list-style-type: none"> 学習に興味をもつことができるよう話すことができたか。 活動内容にイメージを持ち、見通しがもちやすいように、わかりやすく話すことができたか。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業で見学した商店のビデオを見ながら商店で働く人の様子を思い出す。 どのような商店があったか思い出し、いくつかの写真の中からその商店を選び、ホワイトボードに貼る。  <p>(商店見学の写真カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や商店で働くほかにどんな仕事があるか考える。 いくつかの写真や絵カードの中から考えた仕事を選び、いろいろな仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを注視しながら商店で働く人の様子を思い出す。(関心・意欲・態度)(思考・判断) どのような商店があったか思い出し、いくつかの写真の中から選びホワイトボードに貼る。(思考・判断)(知識・理解)(技能・表現) どんな仕事があるか考える。(思考・判断)(知識・理解) いくつかの写真や絵カードの中から仕事を選 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見ながら商店で働く人の様子を思い出す。(関心・意欲・態度)(思考・判断) どのような商店があったか思い出し、商店名を発表する。(思考・判断)(知識・理解)(技能・表現) どんな仕事があるか考え、イメージする。(思考・判断)(知識・理解) 本やいくつかの写真、絵カードの中から仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見ながら商店で働く人の様子を思い出す。(関心・意欲・態度)(思考・判断) どのような商店があったか思い出し、商店名とその店の様子を発表する。(思考・判断)(知識・理解)(技能・表現) どんな仕事があるか考え、イメージする。(思考・判断)(知識・理解) 本やいくつかの写真や絵カードを参考にしな 		<ul style="list-style-type: none"> 画面に注視できるよう、ビデオの操作方法や声かけは適切であったか。 表出言語のない生徒が自分なりに考え、自ら活動できるように支援することができたか。 仕事に対するイメージがもてるよう、視覚的教材の提示や声かけ、身振りで生徒の活動をひきだすことができたか。また、その提示方法は適切であったか。 発表の難しい生徒への発言を促す発問は適

	について発表する。ホワイトボードに貼る。	び、ホワイトボードに貼る。(思考・判断)(知識・理解)(技能・表現)	を選び、発表する。(思考・判断)(知識・理解)(技能・表現)	がら、発表する。(思考・判断)(知識・理解)(技能・表現)	切であったか。  (絵カード選択の写真)
まとめ	・今回学習したことを思い出し確認する。  (落ち葉はきの写真カード) ・次回の学習(「学校の中でできる仕事」)を知り、期待する。	・今回学習したことを思い出しながら確認する。(思考・判断) ・次回の学習を知り期待する。(興味・関心・意欲)	・今回学習したことを思い出し発言する。(思考・判断) ・次回の学習を知りどのような内容かイメージする。(興味・関心・意欲)	・次回、どのような学習が行われるか知り、具体的にイメージする。(興味・関心・意欲)	・生徒にわかるよう視覚的教材を効果的に使って話すことができたか。 ・よく学習したところを評価し、生徒にわかるように話すことができたか。 ・視覚的教材などの提示により、期待できるように話すことができたか。

キ Aさんの本時の評価

観点	学習活動に即した具体的な評価規準	評価	所見
関心 意欲 態度	・本時の学習内容や流れの説明を聞こうとする。 ・商店や学校で働く人が何をしているか興味・関心をもつことができたか。	○ ◎	・自ら見学したことや体験したことについて、興味・関心をもって、意欲的に活動することができた。
思考 判断	・商店で働く人がどのような仕事をしていたか考え、その仕事を絵カードや写真の中から選ぶことができたか。 ・身近な仕事についてどのような仕事があるか、絵カードや写真の中から選ぶことができたか。	○ ○	・視覚的教材を見ながら考え、自分で選ばうとした。 ・見たり、体験したりの経験がないと判断することが難しい。助言により選ぶことができた。
技能 表現	・関心のある仕事を絵カードや写真を貼ることにより、表現することができたか。	○	・立位による動的活動により傾眠傾向が薄れ、自信をもって貼ることができた。
知識 理解	・商店や身近な仕事を絵カードや写真の中から選ぶことにより、理解することができたか。 ・学校や家庭での自分の役割について理解することができたか。	○ △	・視覚的教材を見ながら考え、自分で選ばうとした。 ・経験がないとイメージすることが難しい。

評価の尺度 ◎十分満足 ○概ね満足 △課題がある

(3) 評価規準を活用した評価と指導の改善

進路学習においては、生徒の進路に対する意識という内面的な課題が大きく、達成度が見えきりてこない部分もある。その点から授業者の主観に任せるのではなく、客観的な評価から学習課題等を設定する必要がある。今回の授業においては、4観点の評価規準に基づいた評価を実施することによって、生徒一人一人の学習状況や目標の達成度を把握することができるようになった。特にAさんは、仕事に関するイメージが具体的にもてずにいたが、学校や商店の仕事を見学したり、体験することにより、働くことについての理解が深まっていった。また、「学校や家庭での自分の役割についての理解」については、理解できていないことが明確になった。

このように課題の達成度を客観的に評価することは、教員相互の共通理解と課題の明確化といった点においても大変有効である。一方、理解に時間のかかるAさんの場合は、知識や技能の到達度を的確に評価するうえで工夫が必要であったが、評価規準による評価を行うことで、生徒の学習状況が的確に把握できるようになり、より分析的・客観的な視点で授業を作り直すことができた。

2 「産業現場等における実習のまとめ」

(1) Dさんの就労にむけての個別指導計画（3年次 1学期）

Dさんは、2年次に2回の現場実習を体験し、実習先の企業への就労を強く希望している。進路学習にも関心があり、将来の生活に向けての学習に積極的に取り組むことができている。学校生活全般において概ね意欲的に活動できるようになってきているが、日常生活におけるコミュニケーションや指示理解力、自己表現において、課題のある生徒である。将来の豊かな生活、また企業就労の実現に向けて、以下のような個別指導計画を作成し、指導を行った。

平成15年度 個別指導計画（1）－実態表－〈抜粋〉 高等部3年〇組 名前 D

<p>〈障害〉 知的障害 愛の手帳：3度</p>	<p>〈諸検査の情報〉 特になし</p>	<p>〈医学的情報（配慮事項）〉 てんかん発作：無 服薬：無 健康上の配慮：特になし</p>
<p>全体像</p>	<p>障害の重い生徒への心配りなど優しい面もあるが、自分を認められたいという気持ちも強い。また、3年次になり、他の生徒に対して指導的な発言が友人関係を悪くしていることに気づき、改善されてきている。友だち関係の広がりとともに、表情も明るくなり、安定した学校生活を送ることができるようになってきた。自信のなさから、自分から発言することが苦手であったが、行事の実行委員などを経験することにより、少しずつ苦手意識が薄れてきている。</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実行委員や係など、引き受けた仕事は、責任をもって最後までやりとげる。 ○わからない時は、その場で聞くようにする。 ○指示を理解して、メモを取り、活用できるようにする。

平成15年度 個別指導計画（2）〈抜粋〉－職業－

指導項目・内容	1学期の目標	支援の方法	様子と評価
<p>職業（進路学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路ガイダンス ・3年の進路学習について ・働くことについて ・進路選択・決定について 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くために必要な力について知る。 ・希望する進路の実現のために必要なことを知り、何をすべきかを考える。 ・自分の希望する進路を言い表わす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や友達の例や課題となる場面を示し、働くために必要なことを具体的に理解できるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○産業現場等における実習 ・実習の準備 ・実習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くうえでのマナー、態度を身に付ける。 ・働くうえでの課題を知り、学校生活の中で改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先からの評価を分かりやすく説明し、何を要求されているかを気づかせ、学校生活や日常生活の課題を自分で考えられるようにする。 ・実習で明らかになった課題を作業学習で指導していく。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○社会人になるために ・相談できる人、相談機関について ・さまざまな生活の場について 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中で得られる支援について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や友達の具体的で簡単なケースを挙げ、いつどのような支援を受けられるのかを知る。 	

(2) 指導事例

ア 単元名

産業現場等における実習のまとめⅢ

イ 単元設定の理由

職業の授業は、3グループに分かれて学習している。本時の対象生徒は、主に企業就労を目指すグループである。生徒達は、2年生の1学期から実習を行い、今回で3回目の実習を終えている。次回の3年生の2学期の実習は、ほとんどの生徒にとって在学中最後の実習となる予定である。実習は、社会人になるための大切な体験であるだけでなく、進路先を決定する貴重な機会であるので、本時の事後学習において、これまでの実習で明らかになった課題を確認し、次の実習や将来の生活に活かすための手立てを考えることにした。また、他の生徒の実習での評価や反省を聞くことにより、お互いの経験を共有する気持ちを育てることも学習課題とした。

ウ 本単元の学習計画（8時間）

- ①産業現場等における実習の事前学習Ⅰ（実習カードを書こう） ○月○日
- ②産業現場等における実習の事前学習Ⅱ（実習日誌の書き方） ○月○日
- ③産業現場等における実習の事前学習Ⅲ（面接について） ○月○日
- ④産業現場等における実習の事前学習Ⅳ（実習先の発表と決意） ○月○日
- ⑤産業現場等における実習 ○月○日～○月○日
- ⑥産業現場等における実習のまとめⅠ（お礼状を書こう） ○月○日
- ⑦産業現場等における実習のまとめⅡ（実習カードを仕上げよう） ○月○日
- ⑧産業現場等における実習のまとめⅢ（自分の課題を知ろう） ○月○日（本時）

エ 本時のねらい

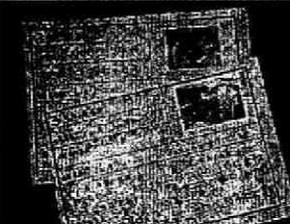
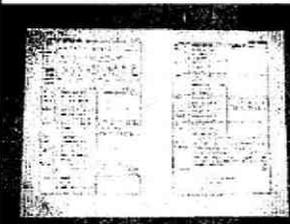
- ・実習先からの評価を受け、自分の課題に気づく。（関心・意欲・態度）
- ・学校生活において、どのように実習での課題を克服していくかを考え、具体的な目標を決め、発表する。（思考・判断、技能・表現）
- ・友達の課題や目標を聞き、働くために必要なことを知る。（知識・理解）

オ 本時の評価規準と学習活動に即した評価規準

	評価規準	学習活動に即した具体的な評価規準
関心・意欲・態度	卒業後の進路や生き方に関心をもち、将来の生活についての学習に積極的に取り組む。	・卒業後の生活に関心をもって学習しようとする。 ・様々な仕事に興味・関心をもって学習しようとする。 ・職業生活を送るうえで必要な事柄に関心をもって学習しようとする。 ・将来の夢や希望の実現に向かって意欲的に学習しようとする。
思考・判断	自分の理想をもち、やりたいことやできることを判断して、進路や生き方を前向きに考える。	・自分の良さや個性を判断している。 ・自己能力適性を正しく判断している。 ・卒業後の進路や生き方等を考えている。 ・卒業後の進路や生き方等を目指して、自らの課題を見いだしている。
技能・表現	自立した生活に向け、自己管理やコミュニケーション等の必要な技能・表現を身につけている。	・将来の夢や希望を言い表している。 ・自分の意志や意見を適切に表現している。 ・他者の良さや感情を理解し、良好な対人関係を築いている。

知識 理解	将来の生活に必要な知識や情報を理解する。	・様々な進路や生き方等があることを理解している。
		・いろいろな仕事があることを理解している。
		・働くことの楽しさや厳しさ、意義を理解している。
		・自分の良さや個性を肯定的に理解している。
		・現場実習の意義を理解している。

カ 本時の展開

	学習活動の流れと生徒の学習に対する姿勢	生徒の活動及び評価				指導への評価
		Dさん	Eさん	Fさん	・・・	
導入	1 前回の自分の実習の反省を見直し、自分の課題を見つけることを知る。  (実習カード)	・自分の実習カードの反省欄を読み、確認しようとしている。(関心・意欲・態度)				・発問は適切であったか。
	2 実習先からの評価を聞く。  (資料「実習評価表」参照)	・自分の評価を聞き、課題を理解しようとしている。(思考・判断) ・友だちの評価に関心をもって聞こうとしている。(関心・意欲・態度)	・友だちの評価に関心をもって聞こうとしている。 ・自分の評価を聞き、課題を理解しようとしている。(思考・判断)	・友だちの評価に関心をもって聞こうとしている。 ・自分の評価を聞き、課題を理解しようとしている。(関心・意欲・態度)	・友だちの評価に関心をもって聞こうとしている。(関心・意欲・態度)	・評価の伝達は、分かりやすい表現であったか。 ・評価をより理解しやすいように支援を行うことができたか。 ・生徒の理解を促し、いろいろな考えを引き出すことができたか。
展開	3 自分の課題について考え、ワークシートに記入する。	・自分の課題を、ワークシートに記入しようとする。(技能・表現) ・教員からのアドバイスを受け、自分で考えた課題を確認しようとしている。(思考・判断)	・自分の課題を、ワークシートに記入しようとする。(技能・表現)	・教員と評価を確認しながら、課題を考えてワークシートに記入しようとしている。(思考・判断、技能・表現)	・生徒の考えを認めよりよい表現を示唆することができたか。 ・具体的な場面を提示等目標を決めるための適切な助言ができたか。 ・自分で目標を決める意欲を引き出すことができたか。	
	4 学校生活で、どのように課題を克服していくことができるかを考え、学校生活での目標を決めて、ワークシートに記入する。	・自分の課題がどんなことであるかを考え学校生活で何をすればいいかを、自分で考えて、目	・教員からのアドバイスを受け、自分の課題を、学校生活でどのように取り組めばよいかを	・教員と課題を確認し、具体的な場面を提示されて、学校生活で何をすればいいかを自分で考		

	<p>標をワークシートに記入しようとしている。 (思考・判断、技能・表現)</p> <p>・教員からのアドバイスを受け、自分で立てた目標を確認しようとしている。 (思考・判断)</p> <p>5 目標を発表する。</p> <p>・目標を発表しようとしている。(技能・表現)</p> <p>・友だちの発表を関心をもって聞こうとしている。(関心・意欲・態度)</p>	<p>自分で考え、目標をワークシートに記入しようとしている。 (思考・判断、技能・表現)</p> <p>・教員からのアドバイスを受け、自分で立てた目標を確認しようとしている。 (思考・判断)</p> <p>・友だちの発表を関心をもって聞こうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>・目標を発表しようとしている (技能・表現)</p>	<p>え、目標をワークシートに記入しようとしている。 (思考・判断、技能・表現)</p> <p>・友だちの発表を関心をもって聞こうとしている。(関心・意欲・態度)</p>	<p>・目標発表の際の生徒への支援は適切であったか。</p> <p>・友だちの発表を聞く雰囲気作りができたか。</p>
まとめ	<p>6 授業の中であげられた課題や目標についてのまとめを聞き、自分や友だちの実習について振り返る。</p>	<p>・自分や友だちの実習の話に関心をもって聞こうとしている。(関心・意欲・態度)</p>		<p>・実習の課題や今後の目標についてのまとめは、適切であったか。</p>

キ Dさんの本時の評価

	学習活動に即した具体的な評価規準	評価	所見
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活に関心をもって学習しようとする。 様々な仕事に興味・関心をもって学習しようとする。 職業生活を送るうえでの必要な事柄に関心をもって学習しようとする。 将来の夢や希望の実現に向かって意欲的に学習しようとする。 	◎ ◎ ◎ ◎	<p>実習先からの評価を知り、就労をより身近に感じるようになった。将来の生活を意識して進路学習に臨むことができるようになった。</p>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性を判断している。 自己能力適性を正しく判断している。 卒業後の進路や生き方等を考えている。 卒業後の進路や生き方等を目指して、自らの課題を見いだししている。 	○ ○ ○ ○	<p>実習や進路学習を通し、徐々にではあるが、自分のよさや個性を、具体的に意識することができるようになってきている。</p>
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望を言い表している。 自分の意志や意見を適切に表現している。 他者の良さや感情を理解し、良好な対人関係を築いている。 	○ △ △	<p>わからないときに、わかったような返事をしてしまう、質問することが難しい等の課題がある。</p>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 様々な進路や生き方等があることを理解している。 いろいろな仕事があることを理解している。 働くことの楽しさや厳しさ、意義を理解している。 自分の良さや個性を肯定的に理解している。 現場実習の意義を理解している。 	○ ○ ◎ ○ ◎	<p>実習先からの評価を受け、仕事にやりがいを見いだすことができた。</p>

評価の尺度

◎十分満足

○概ね満足

△課題がある

資料：現場実習評価表

平成15年〇月〇日

実習生名	高等部3年〇組 D	
事業所名	株式会社 〇〇 △課	
責任者名	〇〇 〇〇	
実習期間	平成15年〇月〇日～〇月〇日 合計14日	
実習時間	午前9時30分～午後5時30分	
出勤状況	出勤14日 欠勤0日 遅刻0日 早退0日	
作業内容	客室フローティング業務、ホブパッド業務、その他雑用	
項目	評価基準	特記事項
準備 (後始末)	1. 言われないとできない 2. 時々、指示を必要とする ③ 自分からきちんとする	
持続性	1. 気分がむらがあり、飽きやすい 2. 時々、声をかければ続く ③ 最後まで、がんばっている	
確実性	1. 確実ではない(不良品が多い) ② 時々確認すれば、正確にする 3. 確実にする	確認しなくてはならない回数を減らすことが必要です。
巧緻性 (器用さ)	1. 手先の作業ができない 2. 大まかな作業ならできる ③ 細かい作業ができる	
理解力	1. ほとんどない 2. 時間をかければできる ③ 理解がはやい	日々教えられたことを復習するよう指導しました。
速度	1. 大変遅い 2. 時間はかかるが作業はこなせる ③ 速い	何事も少しでもはやくできるように日頃訓練するとよいでしょう。
安全性	1. 注意散漫で、危ない ② 教えられたことは守る 3. 危険物を理解し、適切に身を処すことができる	ある程度の判断力は必要になってきますので、考えるくせをつけることが大事です。
責任感	1. あまりあてにならない 2. どうにか責任をはたせる ③ 責任感が強い	
体力	1. 力がない 2. やや重いものでも可 ③ 労働に対応できる	
協調性	1. 自分勝手、好き嫌いや一人行動が見られる 2. 指導者が入れば、周りの人と交わることができる ③ 誰とでも協調できる	
積極性	1. 言わないとしない ② 決められたことはする 3. 進んで作業をする	決められた日課については、自発的に行動できるよう指導していきたい。
指示を受ける態度	1. 指示を聞こうとしない ② 繰り返しの指示を必要とする 3. 素直に指示を受けられる	簡単なことは一度で覚えられるようになるとよいと思います。メモを取るくせをつけてください。
挨拶返事	1. 黙っている 2. 声かけをすると応答する ③ 自分からきちんとする	
総評 (実習でお気づきのこと)	Dさんは、今回の実習は当社の他の実習生と同様な内容を指導してみました。若干、理解するまでに時間はかかりますが、一度覚えてしまえば、他の者と変わりなくできるようになりました。大変素直な性格で、好感がもてます。実習後半は、職場にも慣れ、明るく振る舞っていました。今後さらに新たな目標をもって取り組んでもらいたいと思います。	
今後の見通し	雇用の可能性について ① ある 2. もう少し実習をさせて、様子を見たい 3. どちらともいえない 4. な い	当社の今回の実習の仕事が好きかどうかで成果は大きく変わってくると思いますので、本人の強い意志が必要です。

(3) 評価規準・評価項目を活用した評価と指導の改善

4 観点による評価規準を設定して授業を計画することによって、関心・意欲・態度や知識・理解に偏りがちであった指導内容が、実習での課題を考え、発表するなどの思考・判断、技能・表現等の目標・指導内容の設定につながり、指導内容がより広がった。また、生徒による相互評価を取り入れることにより、自分の気持ちや希望を表現する力、また、他者のよさや課題を受け止め、お互いの経験を共有する気持ちを高められるようになった。特に、本事例では、評価規準による評価と併せて、企業からの聞き取り評価を活用することで、より多面的な評価となり、的確な進路指導の目標・内容設定となった。

また、実習先の評価を活用することで、職業生活を送るうえでの必要な事柄が明らかになったので、将来の生活を意識して進路学習に臨むことができた。

このように、教員の主観的な授業の手応えから一步すすんで、より分析的、客観的で多面的な評価に基づいて授業を作り直すことができたこと、さらにそのことが一人一人に何を育てていくかをより詳細にしていったことや、生徒自身が自分の課題等を理解できたことは、大きな収穫であった。

今後、4つの観点に分けて評価規準を設定する際の考え方や、学習状況の具体的な評価方法について、さらに研究開発を行っていく必要がある。

3 事例「卒業後の生活」

(1) 生徒Gの個別指導計画

本生徒は、自分の能力を過小評価する傾向にあり、新しいことに挑戦しようとする姿勢に欠けている。また過去の産業現場等における実習において、作業能力、態度は評価されるものの、対人関係において課題があるとの指摘があった。さらに、本生徒は、卒業後、通勤寮、生活寮を活用して、自立していくことを望んでいる。そこで以下のように重点目標を設定し個別指導計画を作成した。

平成15年度 個別指導計画(1)―実態表―〈抜粋〉 高等部 3年組 名前 生徒G

〈障害〉 知的障害 愛の手帳：4度	〈諸検査の情報〉 特になし	〈医学的情報(配慮事項)〉 てんかん発作：なし 服薬：なし 健康上の配慮：特になし
全 体 像	児童養護施設に入所している。将来の生活、就労に対する意識は高い。ただ、自分に自信がもてず、情緒不安定な傾向があり、物事に積極的に取り組む姿勢に欠けている。また実習中に職場の輪に入れない等の内向的な性格もあり、対人関係の面でも課題が残る。学級委員や行事の実行委員を経験したり、部活動や生徒会活動にも参加して、少しずつではあるが自信がついてきている。	重 点 目 標 ・あいさつ返事をしっかりする。 ・自分の長所を認めるとともに、友達の良さにも気づき、良好な対人関係を築く。 ・意思伝達能力を養う。 ・何事にも積極的に取り組む。

平成15年度個別指導計画(2)―ホームルーム―〈抜粋〉 高等部 3年組 名前 G

指導項目・内容	3学期の目標	支援の方法	様子と評価
ホ ｜ ム ｜ ル ｜ ム ｜ 活 動 (進 路 学 習)	・卒業後の生活について興味をもつ。 ・困ったときに相談できる機関について知る。 ・(職業)生活に必要な様々なスキルを知る。 ・社会の仕組みや決まり等について知る。	・先輩達の話聞き、より具体的にイメージできるようにする。 ・区役所やハローワーク等の見学を行う。また、視聴覚機器を利用し実際の映像をみられるようにする。 ・卒業後に出てくるであろう相談内容や(職業)生活に必要なスキルについて、具体的な例を示しながら進める。 ・学校の係活動や家庭の手伝い等を例に、権利と義務、責任について説明する。	

(2) 指導事例

ア 単元名

「支援機関と余暇利用について」

イ 単元設定の理由

卒業後の生活は在学中とは違って来る。学校を卒業し社会人になるということは、仕事を中心の生活となり、厳しい社会の現実にも直面することになる。そのため、特に企業就労した人は、仕事や生活面で困ったときに相談できる支援機関について知っておく

ことは大切である。また余暇の上手な利用方法は、職業生活を続けていく上で非常に重要となる。そこで、卒業後の生活にとって欠かせない支援機関や余暇利用について知るために本単元を設定した。

ウ 本時のねらい

- ・困ったときに相談できる支援機関について知ろうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・どんなときにどんな支援機関が利用できるかを知る。(知識・理解)
- ・様々な余暇利用について関心をもつ。(関心・意欲・態度)
- ・余暇利用が職業生活上必要であることを考えている。(思考・判断)

エ 本時の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

観点	評価規準	学習活動に即した具体的な評価規準
関心 ・ 意欲 ・ 態度	卒業後の生き方に関心を持ち、将来の生活についての学習に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活に関心をもって学習しようとする。 ・身近な地域の支援機関に関心をもって学習しようとしている。 ・地域生活や職業生活を送る上での余暇利用に関心をもって学習しようとする。
思考 ・ 判断	卒業後の生き方を前向きに考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援機関別に相談内容を分類することができる。 ・休日の過ごし方について考えている。 ・卒業後の生活に必要な支援について考えている。
技能 ・ 表現	卒業後の生活に関する情報収集に努め、活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のために様々な支援機関の情報の収集に努めている。 ・将来のために様々な余暇利用の情報の収集に努めている。 ・休日の過ごし方を工夫している。
知識 ・ 理解	将来の生活に必要な知識や情報を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・管轄の福祉事務所を知っている。 ・ハローワークの所在地を知っている。 ・生活に必要な支援機関の利用方法を知っている。 ・職業生活に必要な余暇利用の方法を知っている。 ・余暇利用が職業生活上必要であることを理解している。

オ 本時の展開

	学習活動の流れと児童・生徒の学習に対する姿勢	児童・生徒の活動及び評価				指導への評価
		生徒G	生徒H	生徒I	…	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・支援機関と余暇利用について学習することを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりを意識し、大きな声であいさつをしようとする。(関心・意欲・態度) ・話を聞き、卒業後の生活について興味を示している。(関心・意欲・態度) 		<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞き、本時の内容を理解している(関心・意欲・態度) 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れをわかりやすく説明できたか。 ・授業に興味の持てる導入の話ができたか。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面と仕事面の支援機関について知る。(支援機関の書かれたカードを貼る。) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0; width: fit-content;">福祉事務所</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0; width: fit-content;">ハローワーク</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知っている支援機関を発表する。(知識・理解)(技能・表現) ・ハローワーク以外に地域の就労支援機関があることを知っている。(知識・理解) ・管轄の福祉事務所を知っていて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事務所の名称を知っている発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表をしっかりと聞いている。(関心・意欲・態度) ・福祉事務所の名称を知っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・支援機関を生活面と仕事面に分けて思い出す助言が適切に行えたか。 ・生徒それぞれの管轄福祉事務所の名称と所在地を明

<p>展 開</p>	<p>・具体的な相談内容を支援機関別に分類する。 (卒業後に予想される相談内容の書かれたカードを貼る。)</p> <p>〔生活編〕</p> <p>家を出て自立したいが、すぐに一人暮らしをする自信がない。</p> <p>愛の手帳を無くしてしまった。</p> <p>年金を受けたいけれど申し込みの手続きがわからない。</p> <p>悪徳商法に引っかかってしまった。</p> <p>〔仕事編〕</p> <p>今の仕事がいやになってしまい、転職したい。</p> <p>会社が倒産してしまい解雇された。どこか働くところを探したい。</p> <p>労働時間を増やし給料を上げたい。</p> <p>・余暇利用について知る。 (卒業後の余暇活動が書かれたカードを貼る。)</p> <p>同窓会、青年学級、地域のサークル活動等</p> <p>買い物、カラオケ等</p>	<p>(知識・理解) (技能・表現)</p> <p>・ハローワークの場所を知って発表する。 (知識・理解) (技能・表現)</p> <p>・相談内容のカードを正確に各支援機関に分類する。(思考・判断)(技能・表現)</p> <p>・カード以外に自分で卒後の相談内容を予想し、分類する。 (思考・判断) (技能・表現)</p> <p>・生活面は福祉事務所、仕事面はハローワークが支援機関であることを理解できている。 (思考・判断)(知識・理解)</p> <p>・カード以外で自分の知っている余暇利用方法を発表する。 (知識・理解)(技能・表現)</p> <p>・余暇の利用が職業生活を続けていく上で大切なことを理解している。(知識・理解)</p>	<p>(知識・理解) (技能・表現)</p> <p>・ハローワークの名称を知って発表する。 (知識・理解) (技能・表現)</p> <p>・自分のわかる範囲で相談内容のカードを各支援機関に分類する。(思考・判断)(技能・表現)</p> <p>・自分の知っている余暇利用方法を発表する。 (知識・理解) (技能・表現)</p> <p>・自分の知っている余暇利用方法を発表する。 (知識・理解) (技能・表現)</p>	<p>(知識・理解)</p> <p>・ハローワークの名称を知っている。 (知識・理解)</p> <p>・自分のわかる範囲で相談内容のカードを各支援機関に分類する。(思考・判断)(技能・表現)</p> <p>・自分の知っている余暇利用方法を発表する。 (知識・理解) (技能・表現)</p> <p>・余暇の利用が職業生活を続けていく上で大切なことを理解している。(知識・理解)</p>	<p>確にできたか。</p> <p>・ハローワークの名称と所在地を明確にできたか。</p> <p>・それぞれの支援機関で相談する内容を具体的に提示できたか。</p> <p>・生徒の様々な考えを引き出すことができたか。</p> <p>・福祉事務所とハローワークの役割分担を明確にできたか。</p> <p>・余暇利用を思い出させる助言が適切に行えたか。</p> <p>・余暇利用が職業生活を続けていく上で大切なことが伝えられたか。</p>
<p>ま と め</p>	<p>・本時の学習のおおまかな内容についてプリントで確認する。</p> <p>・次回の予定を確認する。</p> <p>・あいさつをする。</p>	<p>・プリントに記入する。 (知識・理解)(思考・判断)(技能・表現)</p> <p>・話を聞き、次回の内容に興味を示している。 (関心・意欲・態度)</p> <p>・終わりを意識し、大きな声であいさつをしようとする。(関心・意欲・態度)</p>	<p>・教師とプリントに記入する。 (知識・理解) (思考・判断) (技能・表現)</p> <p>・話を聞き、次回の内容を理解している。 (関心・意欲・態度)</p>	<p>・各支援機関や余暇利用についてわかりやすくまとめてあったか。</p> <p>・次回の内容に興味を持つ話ができただか。</p>	<p>・各支援機関や余暇利用についてわかりやすくまとめてあったか。</p> <p>・次回の内容に興味を持つ話ができただか。</p>

カ Gさんの本時の評価

観点	学習活動に即した具体的な評価規準	評価	所見
関心 ・ 意欲 ・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活に関心を持って学習しようとする。 身近な地域の支援機関に関心をもって学習しようとしている。 地域生活や職業生活を送る上での余暇利用に関心をもって学習しようとする。 	◎ ○ ○	・卒業後の生活について関心をもち、支援機関や余暇利用について意欲的に学習していた。
思考 ・ 判断	<ul style="list-style-type: none"> 支援機関別に相談内容を分類することができる。 休日の過ごし方について考えている。 卒業後の生活に必要な支援について考えている。 	○ △ △	・支援機関のだいたいの内容を知り、相談内容のカードを正確に支援機関別に分類できていた。
技能 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> 将来のために様々な支援機関の情報の収集に努めている。 将来のために様々な余暇利用の情報の収集に努めている。 休日の過ごし方を工夫している。 	△ △ △	・自分の知っている支援機関や余暇利用について発表できていた。
知識 ・ 理解	<ul style="list-style-type: none"> 管轄の福祉事務所を知っている。 ハローワークの所在地を知っている。 生活に必要な支援機関の利用方法を知っている。 職業生活に必要な余暇利用の方法を知っている。 余暇利用が職業生活上必要であることを理解している。 	◎ ◎ ○ ○ ○	・様々な支援機関や余暇利用法について理解していた。余暇利用が職業生活を続けていく上で重要であることを理解できた。

評価の尺度 ◎ 十分に満足 ○ 概ね満足 △ 課題あり

(3) 評価規準を活用した評価と指導の改善

4観点による評価規準を活用した評価の実施により、Gさんの目標の到達度がよりはっきりと把握できるようになった。Gさんは、卒業後の生活に関心をもって学習しようとする意欲・態度があり、支援機関と余暇利用の方法についての知識・理解がほぼ達成できていることがわかる。ただ対人関係に課題があり、やや消極的なGさんにとっては、支援機関等に関心や利用方法等の知識があっても、実際に利用できるかどうかが問題になる。そこで今後は、4観点のうち、自分の良さや個性を判断し、自分の進路や生き方を前向きに考える「思考・判断」や、人間関係形成に必要な「技能・表現」に重点を置いた指導へ改善していく必要がある。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

学習指導要領に各教科の指導目標・内容が学年別に示される通常の学級の指導と異なり、知的障害教育においては、生徒一人一人の実態に即して指導内容を選択するため、教員によって、教育内容が大きく左右されることとなる。特に知的障害養護学校高等部の進路指導は、卒業後の進路先の具体的な選択・決定にかかわってくるため、指導内容・方法について十分な分析が行われにくい場合がある。

生徒に「確かな学力」を身に付け、指導の信頼性を確保していくためには、客観的な評価を行い、指導内容・方法の検証を行い、指導の改善を絶えず行うことが求められる。

本研究においては、4つの観点による分析的な評価規準の作成を行うことが、評価の客観性、信頼性を高めることにつながるという仮説を設定し、教科「職業」やホームルーム活動等における進路学習に焦点を絞り実践的な研究を行った。

各事例の評価は、4観点で評価規準を設定して行ったことで、生徒の課題が明確になり、指導内容・方法の改善が図られ、生徒の主体的な進路選択する力や、社会参加する力を身に付けていることが確かめられた。

2 今後の課題

(1) 評価規準の開発と、それに基づく指導の改善・充実

知的障害養護学校高等部の進路指導は、作業学習の指導内容との関連が深いので、平成14年度「東京の教育21」研究開発委員会指導資料の作業学習の評価規準と併せて、指導に活用していくことが大切である。

今後、各校においては、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4つの観点に基づき、本資料を参考に進路指導における生徒一人一人の評価規準を作成し、個別に分析的な評価を実施することを通して、生徒一人一人の主体的な進路選択や、社会参加の手立て等の改善・充実に活用していく必要がある。

(2) 多様な評価方法の活用

進路指導においては、生徒自身の能力や適性などの理解を深めるため、生徒自身の自己評価や、生徒同士の相互評価を取り入れることが大切である。とりわけ、自己評価については、自ら学ぶ意欲を高めたり、他人からの評価を受け止める力を身に付けていくためにも重要である。

本研究では、自分の良さや他者の良さを知ろうとする等について自己評価を促す指導や、様々な進路や生き方等について生徒同士で評価する指導、また、現場実習先の企業や福祉作業所の評価、保護者の評価を活用する指導等の検証を行った。

今後、各校の進路学習で指導に活用されている実習先からの評価や、生徒自身の自己評価や生徒同士の相互評価等の事例を収集するとともに、そのような指導内容・方法について研究を進める必要がある。

(3) 生徒の社会参加・自立を支援する進路指導の評価

進路指導においては、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、進路指導の内容の工夫や、教材等の開発等を行い、授業の改善・充実を図るとともに、知識や技能の到達度を的確に評価し、生徒が就労する企業や福祉作業所等への進路につなげていくことが重要である。

現在、東京都では、生徒一人一人の卒業後の社会生活へのスムーズな移行を図るために、卒業後3年間を見通した支援の在り方を明記した「個別移行支援計画」に基づく指導が試み始められている。

今後、学校在学時の進路指導の評価を、個別移行支援計画に明記し、生徒一人一人の将来の職業生活や社会参加・自立への支援となるようにしていく必要がある。